

茨城大学工学部 令和2年度 工学部 FD 研修会報告書

令和2年12月26日

報告者 教育改善委員 吾郷 友宏

1. 実施日時

令和2年12月16日（水）15時30分～17時10分

2. 場所

Teams でのオンライン会議形式で実施

3. 参加者数（参加者数/構成員数）

全体（120/165）

機械（22/23）；知能（22/24）；電気電子（18/18）；メディア（15/15）；マテリアル（12/12）；  
生体分子（16/16）；情報（21/21）；都市（17/19）；数理・応用（13/13）；ビームライン（2/4）

教育改善委員会（敬称略，順不同）：横木 裕宗（委員長）、西 剛史（司会）、坪井 一洋、関根  
栄子、出崎 善久、佐藤 直幸、吾郷 友宏、永野 隆敏、米山 一樹、小林 薫（欠席者：  
なし）

事務職員：清家 佑華

4. 配布資料

無し

5. 議事次第（司会：西 剛史 教育改善委員会FD担当）

15:30 ～ 15:35 開会の辞（副学部長・教育改善委員長 横木 裕宗）

15:40 ～ 16:45 基調講演 『オンライン授業について』

全学教育機構 畠田 敏行 先生

16:45 ～ 17:05 本学教員によるフリーディスカッション

17:05 閉会の辞（工学部長 増澤 徹）

6. 議事

(1) オンライン授業について（全学教育機構 畠田 敏行 先生）

全学教育機構の畠田先生より以下の話題が提供された。

- ✓ 工学部でのオンライン授業の状況、学修成果や到達度などの概観：2012年度からの成績の経年変化（成績のインフレ、改組の影響など）；科目目標の到達状況（講義は大きな変化無し、演習は悪化）；授業アンケート実施状況；進度（大きな変化無し）；成績評価方法（大きな変

化無し)；予習復習の時間(学科によっては時間が増加)；後輩への推薦(肯定的評価が増加)；授業の工夫(全体的に向上)；理解度(全体的に向上)；理解度の理由(学生自身の予習・復習の不足が大きい)；満足度(全体的に向上)；遠隔授業(1割程度の学生がオンライン授業に適応困難)；担任制(他学部に比して肯定的評価が増加)；学修環境(おおむね満足)；前年度との新生の比較(不安を抱えている学生が増加、交友関係も不安と回答した学生が増加、その他学生生活一般の不安も増加)；GPAと卒業率等との関係(GPA 1.0未滿となった学生は、高確率で問題発生)；GPAの比較(全体に向上)；他学部との比較(授業が難しい、成績が低め。遠隔授業は適切に対応できた)

本講演に対して以下の質疑応答があった。

Q1：1年前期のGPAが良かったのはオンライン授業がうまく行ったと考えて良いのか。オンラインで試験が簡単になったためGPAが良くなっただけとも考えられる。そうだとすると、対面授業・対面試験が復活した際、成績が悪化する可能性が無いか。

A1：教員からの到達状況評価は前年度までと大きな変化は無い。ただしオンライン試験やレポートでの成績評価が増えたことで、理解度の確認が不安なのは確か。

Q2：17T学生から1年次の習得単位数が急に低下したのは、CAP制の関係はあるか。また、1年時の専門科目を増加・充足させても良いと考える。

A2：(前者について横木委員長からコメント)CAP制の本格化・徹底化による影響が大きい。(後者については提案という形だったため、特に回答は無し)

Q3：17T学生のGPAが前後の学年に比して悪いのは、教養・基盤科目の制度変更に伴って、2年次以降の専門科目との接続が悪くなったことが原因として考えられる。また、オンライン授業については真面目に出席・聴講している学生と、リモート授業に参加だけして実際には全く聴講していない学生等、不真面目な学生との差が大きくなったと感じる。

A3：(前者には回答はなし、後者について)オンライン授業への適応力の学生による差は確かに見られた。

Q4：成績が年々上がっていることについて、他学部でも同様の傾向にあるのか。また、理解度の回答結果と、実際の成績の相関はどのようになっているのか。

A4：現時点では、アンケート結果と成績の紐づけが出来ないため、理解度と成績の関係の分析は困難。GPAの向上は全世界的な傾向であるが、教員側の授業努力の影響に加え、教員側が学生に合わせて授業内容や成績評価基準を緩くしたためとも考えられる。なお、茨大内部では、理学部・工学部は他学部に比して成績分布が低めの傾向が続いているが、これは授業の内容や成績評価の方法などの影響が主に考えられる。

Q5：Q4に関連するが、全学共通での奨学金の選考や教員評価といった際に、学生のGPAを単純に適用するのは必ずしも正しくないのでは、しっかり監視・意見をしてほしい。

A5：(特に回答なし)

(2) 本学教員によるフリーディスカッション

ディスカッションの題材として、吾郷委員から物質科学工学科の前期オンライン実習・実験の実例紹介と、学生からのアンケート結果の説明があった。これに関して以下の質疑があった。

Q1：オンライン実験の説明は、群馬・宇都宮大学との三大学連携でのデジタルコンテンツ作成に当たって参考になった。来年以降の実験実習はどのように進める予定なのか。

A1：すでに後期の実験が始まっており、半分程度の課題については、人数を減らして対面実施している。対面実験について学生からのリアクションは大変良く対面でやる意義は大きいと。

Q2：後期はオンラインと対面をミックスでやった理由は何か。全て対面ではできなかったのか。

A2：三密回避をするための実験実習スペースや教員数が絶対的に不足しており、可能な限り対面実験としたものの、全てを対面とすることは出来なかった。

以上  
文責：吾郷 友宏